

学びの風便り

リーディングスクール通信 57 R7.12.25

発行：松本市教育委員会 教育研修センター



学びの改革のあゆみ 島立小学校・菅野中学校



島立小学校 実践！単元内自由進度学習

「自ら学び人との関わりの中で自己表現できる島立っ子」を育むことを目指して1学期から準備を進めてきた島立小学校の単元内自由進度学習。2学期は学習環境や学習カード、振り返りカードの様式など具体的な教材教具にスポットライトを当て、連学年を中心に検討を重ねました。

合言葉は「目の前の子どもから」

島立小学校の先生方が授業づくりの際に大切にされたことは、「目の前の子ども達」の姿です。昨年の実践を参考に今年度の授業づくりをしていきますが、昨年のモノをそのまま活用するという発想はありません。振り返りカードを例にとってみても、「いつも形式的な振り返りになってしまって、次の時間につながるものにしたいけど、どうしよう」「『学習の手引き』と『振り返りカード』を一体化して、手引きを見ながら今日の自分はどうかだったかなって振り返りができるようにしたら…。」と同じグループの先生と意見交換し、これまでの振り返りカードをブラッシュアップしていこうとする議論が行われていました。目の前の子ども達の姿から出発し、「あの子達が自分で学びを調整していけるためには、どうしたらいいだろう」という問いに、一丸となって向かっていく雰囲気が研究会の中に感じられました。



プリントを見合い、子どもを主語に語り合う先生方

単元内自由進度学習の実践

11月より、学年ごとに時期をずらして自由進度学習の実践が始まりました。4年生の学級では、12月9日に社会科「目指せ！長野県博士ちゃん」の単元内自由進度学習がスタートしました。

オリエンテーションでは、一人一台端末を活用し先生からクイズが出されました。長野県の交通、気候、地形、農業、観光…様々な分野からクイズを出題された子ども達は、「それ、知ってる!」とか「え?聞いたことあるけど、何だっけ?」とつぶやきながら楽しそうにクイズに答えていきました。結局、全問正解者はゼロ。子ども達からは「まだまだ知らないことがあるなあ」「もっとクイズしたい、自分でも作ってみたい!」「長野県のこと、調べてみたい!」という声が続々と上がりました。

先生からこれからの学習の進め方について説明を聞き、振り返りを記入していきましたが、もう子ども達の中に「長野県の●●について調べたい」という願いが沸き上がっていました。振り返りの記入を終えた子が、友達や先生に自分の願いを嬉しそうに語っている姿が印象的でした。それは、これから始まる学習へ期待に胸を膨らませているようでした。



担任の先生に自分の願いを語る子ども達

子ども達の変化をとらえる先生方のまなざし

全校に先駆けて算数「かたちづくり」の単元内自由進度学習を終えていた1年生。担任の先生は、子ども達の学校生活の様子に変化を感じていたようです。先生は、「自由進度学習をやってから、子ども達が、自分で考えて学習を進めているなど感じる事が多くなりました。ちょっとした空き時間や休み時間に、自分で『ここまで終わらせよう』と決めて、問題に取り組む子が増えてきたように思います。こちらから『やりなさい』なんて一切言っていないのに、一年生でも自分で考えて学習を進めることができるんですね。」と、嬉しそうにお話してくださいました。

ちょっとした子どもの変化をとらえる先生のまなざしと、それを価値づけてさらなる成長へとつなげていこうとする温かな声がけに支えられ、のびのびと自己表現できる「島立っ子」が育っています。

菅野中 「協働」の風が、生徒と先生を包み込む

先生たちの「協働」が、教室の風景を変えていく

「協働」を合言葉に、学びの改革に挑戦している菅野中学校。その原動力となっているのは、「協働」を、先生たちが自ら体現し、楽しんでいる姿です。

夏休みに行われた「サマーセミナー」では、先生たちが街へ繰り出し、興味を惹かれたものを写真に撮って問いを見つける「探索」を行いました。目を輝かせ、語り合う先生たちの姿を見て、校長先生は「本当に幸せな気持ちになった」と話し、その様子を2学期の始業式で生徒たちに紹介しました。

このような先生たちが「仲間と一緒に学ぶって楽しい!」と実感している空気は、確実に生徒たちへ伝わりつつあります。10月に行われた2年生の国語(徒然草)の授業では、古典の内容を自分たちの生活に引き寄せて豊かに解釈し合い、グループで自然に対話が生まれる姿が見られました。友のつぶやきに頷き、自分の考えを更新していくその姿は、先生たちが体現してきた「協働」そのものです。

助言者の畔上一康先生からも「生徒たちの表情が以前より柔らかく、対話的な学びが当たり前になっている。職員組織が対話的であることが子どもの学びにも反映している」と、確かな手応えをいただきました。

先生たちが学びを楽しむ姿勢が、生徒一人ひとりの安心感と主体的な学びを支える、良質な土壌となっています。



SLS が育む「同僚性」という絆。対話の積み重ねが授業を変える

こうした変化を支えているのが、菅野中学校独自の研究体制「SLS (Sugano Learning Session)」です。先生たちは、自分の興味関心に合わせて「問い」「対話」「個別最適な学び」など8つのラーニング・グループ(LG)に分かれ、半年間、協働的な探究を続けてきました。

12月12日に行われた「SLSをまとめる会」では、各グループが取り組みの足跡を熱くアウトプットしました。ここで語られる先生たちの言葉には、「挑戦したことへの手応え」や「実践に裏付けられた重み」があふれていました。また、アウトプット後に行われたフィードバックの協議も、スタートから活発に思い・考えが交わされる、熱気にあふれたものになりました。



先生たちが教科を超えて教育観を交流し、互いの実践を「それ、いいね!」と認め合う。こうした対話の積み重ねが、職員室の同僚性を今、かつてないほど高めています。当日、SLSを参観した中信教育事務所の指導主事からは、「これはもう、先生方による探究ですね」という言葉をいただきました。

「誰かに言われてやる研究」ではなく、先生たちが自らの問いに向き合い、仲間とともに試行錯誤する。この主体的な姿勢こそが、菅野中の学びを根底から支えています。学校としても、研修日は4時間授業にするなど「じっくり、ゆったり」対話できる仕組みを整え、先生たちの挑戦をバックアップしています。

「教師の変化が学校を変える!」胸を張って発信する、私たちのシンカ

対話の量そして質が高まるにつれ、先生たちの表情はより明るく、主体的なものへと「シンカ(進化・深化)」しています。今、菅野中の職員室には、自分たちの変化に対する自覚と、チームとしての誇りが生まれています。

この手応えを胸に、1月には「リーディングスクール・フェス」にて、「教師の変化が学校を変える!」というテーマで学校づくりの歩みを発信する予定です。

先生たちが変わり、学校が変わる。その先に、生徒たちが「協働」の喜びを知り、自ら学びを切り拓いていく未来があります。菅野中学校の挑戦は、これからもワクワクする気持ちとともに続いていきます。